

## 平成21年5月27日 オリブ園職員大高栄子先生が亡くなりました

### 大高栄子からのごあいさつ

本日は大変お忙しい中、私のためにお集り頂きまして誠にありがとうございました。  
私、大高栄子は、平成19年の夏、職場でありますオリブ園での定年・退職を目前にして乳癌を患ってしまいました。手術のために半月入院。その後抗癌剤・放射線の通院治療を受けながら、定年・退職後も嘱託として勤務を続けさせて頂きました。それがどれほど大きな励みになった事か、私の人生の中で、オリブ園との出会い、仲間、御父兄、お子さんたち、みなさんに心から感謝の気持で一杯です。

乳癌の告知を受けてからは、なんで私が!?!と愕然としました。しかし、告知を受けてから3日後に何気に空を見上げた時に、心の底から「私の人生、楽しかったなあ〜」という思いで一杯になりました。それからはもう何も怖いものがなくなりました。仕事との出会い、これは私にとってまさに誇りに近いものです。「日本の教育はアメリカに比べると20年も遅れているのさ、渡米して日本に健康なお子さんと、「障害」をもったお子さんと共に分けへだてせず、教育を受けさせる場を、初めて創った故片桐格先生の情熱たるやただのものではありませんでした。日本における統合保育発祥の地が、この秋田市新屋にあり、いまだに全国から注目を浴びております。

人生の伴侶も得ました。それがまたユニークな人間でした。「思いやりこそ、が人間同志の間で最も大切な事なんだよ、と、子どもに教えるように常日頃、教えられました。(中略)

本当にありがとうございました。



若き日の  
黒木栄子先生  
(のちに大高先生)

大高先生がラッキーを  
偲んで出版した



大高先生  
2008年  
すでに闘病していた



### 記

オリブ園職員である大高栄子先生が去る平成21年5月27日に癌との闘病の中で亡くなりました。ここに深く悲しみと感謝の意を捧げます。

大高栄子先生は、現職の職員の中では最も古くから(昭和45年)の職員でした。教育系の大学を卒業後、自分からこの福祉の世界をめざし、当時はこの職場の将来性については全く未知でしたが、この職場を選択し、長い間この道に自分の人生をそそいできました。自分で自立したいと、秋田市にある家族から離れ、アパートで暮らすうちに、かつて通園した子どもさんのお父さんが癌で亡くなった日に、1匹の猫がアパートに迷い込みました。そのお父さんは大高先生のファンでした。それが猫・犬との出会いの始まりでした。やがて、遅かったのですが、結婚もされ、楽しい10年でしたが、残念なことに夫は癌で亡くなりました。その夫の最後をしっかりと看取った姿も立派でした。その楽しい10年の中で育てたラッキーと言う犬がいなくなり、やっとの思いで見つけたことが、その後の「いぬ・ねこネットワーク」につながりました。いなくなったり、捨てられた犬猫がいくらかもたずに殺処分されること、その数が膨大なことへの抵抗が、その動機づけでした。彼女の生き物の命の大切さに対する信念のような思いは、彼女の専門が「生物」だったからかもしれません。

いっぽう仕事の方では、子どもとの対応については、言うまでもなく、家族が何でも話したくなくなる雰囲気を持っていて、貴重な存在でありました。本当に残念でなりません。

この2年間近い闘病生活は、私たちを圧倒します。自分のわずかな明日をしっかりと見据えた生き方だったのです。上記の「大高栄子からのごあいさつ」は葬儀で代読されました。その場にいた全ての人の心を打ちました。それほどまでにしっかりと自分の死と向き合いながら、向き合っていることを周囲のほんとうに限られた人にしか伝えず、それ以外の人にはそのことを全く悟られずに過ごしたことは驚異でありました。

ただ感謝の中でご冥福を祈るしかありません。

(オリブ園施設長 後藤進)

何かありましたら誰にでも連絡・相談

E-mail olive@kodomo-sekai.com  
ホームページ <http://www.kodomo-sekai.com>